

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和元年度第2回美里町在宅医療介護連携推進会議

2 開催日時 令和元年10月15日(火)午後6時32分から午後7時35分まで

3 開催場所 美里町健康福祉センター 2階研修室

4 会議に出席した者

(1) 委員

横山眞和委員、野田清一委員、玉手英一委員、大蔵暢委員、佐々木義夫委員
木村泰之委員、尾形文克委員、伊藤恵委員、平塚莉沙委員

(欠席：永澤もとえ委員)

(2) 事務局

渡辺克也、伊藤博人、相原浩子

(3) その他

涌谷町福祉課包括支援班 佐々木敦、中野目裕美、早坂宏美

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議事

遠田郡在宅医療・介護連携推進事業従事者研修会について
遠田郡医師会との連携について

報告

令和元年度町民公開講座について
大崎市の在宅医療・介護連携推進事業の取組について

会議の公開・非公開の別

公開

6 非公開の理由

7 傍聴人の人数

0人

- 8 会議資料
別紙のとおり

9 会議の概要

署名委員 木村泰之委員、伊藤恵委員

(2) 議事

横山委員長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>(1) 遠田郡在宅医療・介護連携推進事業従事者研修会について事務局から説明をお願いします。</p>
伊藤課長補佐	<p>それでは伊藤から説明をさせていただきます。資料1を御覧ください。</p> <p>在宅医療・介護連携推進事業従事者研修会につきましては平成30年11月に遠田郡医師会、美里町と涌谷町の2町、県北部保健福祉事務所の共催で開催しました。こちらにつきまして終了後に参加者の皆さんにアンケート調査を実施しております。</p> <p>こちらの講座に参加して良かった、どちらかといえば良かったと回答された方の割合が事務局の職員を除いた参加者72人のうち64人、割合にして88.9%の参加者が概ね研修内容に満足した結果となっております。とりわけ介護事業従事者の方々からは、他の職種で介護に従事している皆さんの考えや意見を聞くことができ参考になったという感想が多く、中でも普段は意見等を聞く機会が少ない医師の意見や考え方を間近で聞くことができ、大変有意義な研修会であったとの感想を多くいただいております。</p> <p>そのような中、令和元年度の事業従事者研修会につきましては、どのような形で進めようかということで涌谷町の事務局と本町の事務局で話し合いを行っております。介護従事者の皆さんが医師との情報共有を図る場として今回は遠田郡医師会の総会で従事者研修会を開催できないかということで現在調整を進めているところです。</p> <p>遠田郡医師会と情報共有を図るとともに、我々の取組について医師会の皆さんに説明できればと考えているところです。総会の場で研修を同時に開催することで、医師も参加しやすくなるのではと考えているところです。調整経緯につきましては7月初旬に遠田郡医師会事務局に両町の事務局が伺い事業の取組について説明をさせていただきます。最終的に資料の2枚目以降となります。参考資料を御覧ください。これを事務局で作成いたしました。9月前半に遠田郡医師会への説明</p>

	<p>資料として事務局で確認したところです。</p> <p>今月の10月4日、遠田郡医師会の理事会において、両町の事務局がこちらの資料を用いて説明及び合同研修会に関する提案をさせていただきました。遠田郡医師会の理事会からは合同での研修会開催について了解をいただきました。</p> <p>次のページを御覧ください。現在のところ、まだ案ではございますが研修のテーマとして情報共有の観点から事業の取組の説明、遠田2町の連携による取組の説明を行いたいと考えております。現時点でこちらの内容については案ということになっております。</p> <p>開催日程ですが前回の会議の際にこちらの合同研修は当初は10月から11月初旬に開催したいということで御説明申し上げておりましたが、医師会の総会が3月に行われるということで、現在の案として令和2年3月13日(金)に開催することとして調整を進めております。こちらにつきましても、まだ案ということで最終的な調整には至っていない状況です。</p> <p>以上で事務局からの説明とさせていただきます。</p>
横山委員	<p>今の事務局からの説明について、何か質問等ありますか。</p> <p>3月の総会となると臨時総会ですかね。総会は6月なので。</p> <p>あと参加者は結構広い範囲で考えているのですか。</p>
相原課長補佐	<p>去年の従事者研修をそのまま総会の場でできればということで対象になる方については美里町・涌谷町の介護サービスに従事している職員の方、医療機関に従事している方、行政の職員というところが対象となる予定です。総会の場にしたいというのも別の機会に研修会をすると、なかなか先生方が参加するのが難しいのではないかとということで、今回、初めてなのですが総会の場を活用させていただいてというのは失礼なのですが、先生方がいる場にこちらから行って一緒に話ができる機会にできたらと考えております。</p>
横山委員	<p>何人くらい想定していますか。会場があまり大きくないですよ。</p>
相原課長補佐	<p>そのことは私たちも考えておりました。ぎりぎりいっぱい的人数になるのかなと考えてはおりました。</p>
横山委員	<p>いずれにせよ50人以上にはなる可能性がありますね。臨時総会の後に研修会を開いてその後に懇親会などは行わないのですか。</p>
相原課長補佐	<p>去年、涌谷町がこのような形で研修を行い、その後、懇親会にも参加されたということで、先日の事務局との打合せ、理事会との説明でも、懇親会にも参加という形で先生方とお話できる機会が持てたらどうかと考えてはおりますが、そこは案なので今後の医師会との調整次</p>

	第となります。
横山委員	会議だけだったらどこでもできるのでしようけど、懇親会までとなると場所はどこかあるのですかね。
相原課長補佐	<p>具体的な調整はこれからとなります。これまで開催していた場所も今までは1階だけでやっていたのを2階で総会、1階で懇親会といったことも可能かと思われま。</p> <p>先生方と一緒に話をする機会というのが無く、私たち以上に介護の従事者の方々がその機会が無いというところで、そのような場を設けてはどうかと考えておりました。</p>
大蔵委員	美里と涌谷と一緒にやるということなのですが、以前、涌谷の会議に出席した際に多くの方が合同でやることに賛同する一方で消極的な方々も何人かいらっしゃいました。そこらへん、委員さん方はどう思いますか。
玉手委員	消極的だったとはどのようなことですか。
大蔵委員	涌谷は涌谷でやればいいのではということです。
横山委員	そうなってくると医師会は1つしかないですね。
大蔵委員	ロジックは医師会が1つなので研修会をやるにしても一緒にと筋は通っている。ただ涌谷の方に少数ではあるけれど消極的な意見が出ている。
玉手委員	我々は理事会に出ておりますが、理事会においては反対の意見はありませんでした。行政に協力しましょうとなりました。
横山委員	医師会側からは結局、美里であれ涌谷であれ分けてはだめだということですね。
玉手委員	一緒にやろうというのであれば、それは医師会としては協力する。
大蔵委員	医師会以外の美里の委員さん方どうですか。
横山委員	これには歯科医師会も入るのですよね。
相原課長補佐	その辺はこれからの調整となります。
横山委員	涌谷に大崎歯科医師会の会長もおりますし、できれば一緒に行えたほうがよろしいと思います。
相原課長補佐	事務局として御意見を尊重しながら調整してまいります。
野田委員	この総会の出席率というのはどのような感じですか。
横山委員	全く出ないドクターもおります。
相原課長補佐	今大蔵先生のほうから医師以外の委員さん方の御意見をという話があったのですがいかがでしょうか。
伊藤委員	美里町と涌谷町との小さな町で少ない資源の中であるものを活用

	<p>してというところで、私の所属するステーションも涌谷もエリアになっておりまして、行政や施設のケアマネさんともつながっているので、一緒に進めていくことはありがたいかなという印象はあります。</p>
佐々木委員	<p>通所介護は涌谷の方も多いので基本的には近隣の情報も共有していかなければならないです。涌谷からこちらに通ってもらうよりは近場に通ってもらったほうがいい場合もあり、そこはやはり情報共有をしながら2町の事業所で支えていくというのが一番良いかと思えます。</p>
尾形委員	<p>私も他の委員さんが話されたように地域資源が少ないので、お互い困っていて、同じようなことで詰まっていますし情報交換を積極的にしていくほうが好ましいと思うので、枠とか壁を作らないやり方のほうがよろしいのかなと感じております。</p>
木村委員	<p>医師会との連携ということで郡単位で考えるというのであれば両町合同で取組を進めていくのはいいのかなと思うのですが、内容によっては分けても良いと思う場合があるので必ずしもということではないとは思いますが、今回、医師会という対象があるので、それに合わせて両町でという進め方は問題ないかと思えます。</p>
平塚委員	<p>実は事務所の中でも、どうやって連携していけばよいのかと、所長含めてかなり気にされていて、これからも涌谷と美里の連携を進めていくべきかは話題に出ている、他の委員さんからも意見が出てきましたけど、資源を考えた場合は医師会との連携が必須な部分があるし、お互いの町の役割分担というかできる部分とできない部分があるかと思うので、できるところからやっていった場合によっては分けて行う部分もあるとは思いますが、できるところから1つ1つやっていけばよいのかなと思えます。</p>
玉手委員	<p>研修ということで、どのような演題で講師とかは考えておりますか。</p>
相原課長補佐	<p>現在考えていたのが資料1の2ページに記載しておりますが在宅医療介護連携推進事業というものを、実際各町がどのようなことをやっているのかを含め、これまで先生方に御説明する場面がありませんでしたので、その辺を研修のテーマにできたらどうかと考えておりました。具体的にどうするかというのはこれからです。</p>
玉手委員	<p>事務局が講師となって説明するイメージですか。</p>
相原課長補佐	<p>もしかしたらそうなるかもしれないですが、双方の町のことを話すのか国全体のことも併せて説明するかなど、もう少しこれから検討し</p>

	ていきたいと考えております。
玉手委員	時間はどれくらいを想定していますか。
相原課長補佐	20分から30分を想定しております。懇親会もあるというお話でしたので時間ももう少し確認をして進めて生きたいと思っております。
横山委員	講師をどこから呼んだほうが良いかもしれないですね。
渡辺課長	色々と御意見ありがとうございます。その辺も遠田郡医師会と確認しながら調整してまいります。
野田委員	今まで講師にケアマネジャーの方が行ったことはありますか。地域包括ケア等の事業は、やはりケアマネジャーが基点となっていていきますので、その方にやはり講師として御説明いただくほうが有意義な研修になるのではないかと感じます。
相原課長補佐	その辺も併せて検討したいと思います。
大蔵委員	研修内容はわかり易くて簡単なのが良いかと思えます。看取りや認知症ケア、在宅ケアなどを軸として制度説明を行ったほうがよいのかと思えます。
横山委員	色々と意見が出ましたが、その辺を事務局の方で検討の際に留意いただけたらと思えます。
横山委員	(1)の議事に関して他に何かありますか。無いようでしたら(2)遠田郡医師会との連携について、事務局お願いします。
相原課長補佐	<p>相原のほうから御説明いたします。資料につきましては資料2を御覧いただきたいと思えます。</p> <p>今年度の課題としておりました、医師会との連携の在り方について、これまで取り組んできた経過についてと今後の取組の方向性について、この場で皆さま方の御意見をいただきたいと思えます。</p> <p>先ず6月6日に加美町の協議会事務局を美里と涌谷の事務局で視察してきました。内容としましては資料のとおりであります。加美町としては平成27年度に両町の担当職員が加美郡医師会長のもとに伺い、事業についてどのように取り組んだら良いかということ相談したということでした。</p> <p>その後、公立加美病院在宅診療科の横山医師が調整担当となりまして、両町の担当職員と協議を進めて平成28年度から在宅医療介護連携推進事業を2町で開始したということです。</p> <p>加美郡医師会については医師のミーティングというものが月2回ほどあるようであり、その場で事業にかかる情報ですとか進達したということでした。加美郡医師会の事務局の体制なのですが、職員につ</p>

いては1人ということで週3日の勤務体系でありまして、連携推進事業にかかる事務局をお願いできるような状況ではないということから両町で事務局を持って事業を進めているとのことでした。今回のようなこの協議会で実施する研修会ですとか講演会については医師会長へ情報提供しながら医師会の会員へ周知をしてもらっているということでした。加美町では地域ごとに医療連携に関する座談会を開くということをしておりまして、その時には地域の先生方に座長で出席してもらっているという話を伺ったところです。

続きまして、涌谷町と美里町での事業の医師会との連携ということについて、今年度協議を進めた経過についてお話ししたいと思います。4月から9月9日までの経過については資料に記載しているとおりとなります。加美町に6月6日に視察をした後、7月4日に2町の事務局で事業の在り方について協議しております。医師会についてこの事業の実施というところも一緒にできるように何か働きかけができたかどうかと考えていたのですが、遠田郡医師会も事務局が1人というところでした、医師会に事業の事務局を置くというのは基本的には難しいのではないかと考えております。まずは研修とか情報交換というのを医師会の先生方と行いながら顔の見える関係を築くことを考えていってみたいかどうかということになりました。その後すぐに医師会の事務局と2町の事務局で情報交換を行っております。その場で情報共有することを考えた時に、今年は従事者研修を総会の場で行うことから考えてみたらどうかというところを話し合っております。

次に資料の裏面を御覧ください。8月27日に涌谷町で第1回在宅医療介護連携推進協議会が開催されまして、私たち美里町の事務局も出席しております。こちらの協議会の場で事業の1つであります介護の在り方ということについて意見交換がありました。先ほど大蔵先生からもお話があったのですが、この会議が1つになって事業を運営していくことに関しては賛否両論であったということが実際のところです。

以上のことからこれからの方向性の案としましては、資料に書いてある2つのところを取り組んでみたらどうかと思っております。

1つ目は遠田郡医師会との情報共有をもっと密にする方が良かなということを考えております。加美町の動きを見た時に私たちのほうでここまで医師会に情報提供したりとか御相談したりということをしてこなかったというところを感じておりまして、事業内容を報告したりとか研修会の企画について一緒に協議していただいたりとか、

	<p>研修会を共同で行うなど全部ができなくとも何かできるところから行って見たらどうかと考えております。</p> <p>2つ目としましては今回行っております両町の推進会議につきまして共同で行っていくというところも併せて考えていったらよいのではと思っております。</p> <p>すぐに一緒になるということよりも必要性をもう一度確認しながら郡医師会が2町で構成されているということもありますので、2町それぞれというよりは1つになって運営していくというあたりも検討を進めてみてはどうかと考えていたところです。</p> <p>私からは以上になります。</p>
横山委員	今お話しがありましたけれど、皆さんいかがでしょうか。
玉手委員	加美町をモデルとしてというところですかね。
相原課長 補佐	はい。
玉手委員	加美町と色麻町が別々ではなくて一緒にやっているということですよ。涌谷町は美里町と2町で進めていくことに了解しているのですか。
相原課長 補佐	それについてこれから協議を進めなければというところではあったのですが、涌谷町の協議会における意見が賛否両論だったということもありましたので、その辺は丁寧に話を進めていったほうがよいのかなとは考えているところです。
玉手委員	美里町としては一緒にやりましょうよとまとめたいわけですね。
相原課長 補佐	<p>私たちだけで進めましょうというのでは上手くいかないと思いますので、そこは委員の皆様の御意見を伺えればと思います。</p> <p>本日、この場で決めていただきたいとかということでもありませんので御意見をいただけますと助かります。</p>
横山委員	要件的に違うのは加美には横山先生という在宅医療を進めている方がいるのですが、その先生が両方を結局はまとめている形ですよ。
相原課長 補佐	そうですね。加美郡については公立加美病院がありまして、そこにそのような先生がいらっしゃるということは私たちの町とは全く条件が違うというところは実際にあります。
大蔵委員	環境が、ここと加美はちょっと違うので果たしてどこまで参考となるのかは少し不安があります。

相原課長補佐	今のような御意見を伺いたいなというところです。
横山委員	町と町が一緒にやるということは財政が別々というところに最初から問題がありますよね。そこを一緒にするわけにはいかないですから。その辺でもどちらが多く負担するとかはないでしょうから、形だけでも同じものを作っていくという方向性に持っていただけでしょうかね。難しいですよ町と町の調整は。
相原課長補佐	そうですね、実際にその辺はどうしたら良いのかと思っはいるのですが。
横山委員	すぐに何でもというのは無理でしょうから、委員の皆さんで顔を合わせ僅かずつでも良いので進めていけばよろしいのではないのでしょうか。
大蔵委員	加美町の横山先生に来ていただいてお話ししていただくということではできないのでしょうか。
玉手委員	すごく分かりやすくて意義はあるかと思えます。
横山委員	遠田郡医師会との連携については何か御意見ありますか。無いようでしたら、次の報告について事務局お願いします。
伊藤課長補佐	それでは次第の3番の報告に入ります。 まずは報告の1番目、令和元年度町民公開講座について御報告申し上げます。
相原課長補佐	資料3、令和元年度町民公開講座について、を御覧ください。こちら当日の資料とアンケートをまとめたものを資料としております。 7月24日に町民公開講座を開催しました。今回の研修のテーマとしたところが、町民の皆さんの相談を包括支援センターで受ける際にどうして退院になるのとか、どうしてもっとリハビリをしてもらえないのというような御相談を多く受けることがあります。 ですので、今の医療ですとか介護の体制について少しでも理解していただいて今の生活に活かしていただけるような研修が開けたらいいかなというところで町の高齢者の状況についてというところと、講話としまして本日も委員で出席いただいております、ごた訪問看護ステーションの伊藤所長から元気なうちから知っておきたい在宅医療と介護についてということで、今の医療制度についてわかりやすく御説明いただいたところです。もう1つは私から介護認定の受け方ですとかサービスの利用の仕方というところをお話しさせていただきました。当日は66人の参加者がありまして、特に訪問看護ステーションの内容について聞いたことが大変良かったという御意見を多く

	<p>いただきました。民生委員児童委員さん方の出席も多く、そちらの委員さん方からは民生委員児童委員の研修で再度このようなことを行ってほしいというような要望がありまして、今後、実施する方向で考えているところです。</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
伊藤課長補佐	<p>続きまして大崎市の在宅医療・介護連携推進事業の取組について事務局より御報告申し上げます。</p>
相原課長補佐	<p>資料4を御覧ください。大崎市における地域包括ケアシステムの構築に向けてということで、前回、委員さん方から大崎市の事業の取組を聞いてみたほうが良いのではないかと御意見がありましたので、事務局で大崎市の担当に取組について話を伺ってきました。</p> <p>経過についてなのですが、資料の4ページ目の経過その1のところから見ていただきたいと思います。大崎市の事業のきっかけとなったところが平成21年から医師会と一緒に認知症の勉強会を定期的に始めたそうです。先生方がなかなか認知症という病気のことを理解するのが難しいという話があったので、市でも協力しながら先生方と一緒に勉強会をしましょうということで始めたそうです。</p> <p>平成23年度から勉強会に地域包括支援センターも参加して、実際に相談や対応している個別事例を使いながら連携の課題などの検討を始めたそうです。それを行っている中でもう少し連携をとった方が良いという話になり、平成26年度に認知症対策推進協議会を市に作りまして包括ケアの在り方というものの検討が始まったということでした。そこに医師会も参加しながら医療と介護の連携の模索が始まったということです。</p> <p>次の経過その2を御覧ください。先ほど話したことを進めていく中で難病の方のこととか認知症の方のこととか色々と検証していく過程で、医師会で様々な研修会や講演会などを企画したり、他の先生方がどのようなことに困っているのかなどアンケート調査を始めたら良いのではないかとこのところ包括ケア推進委員会というものを設置したそうです。それを受けて市では先生方だけではなく様々な部署や介護の従事者と意見交換をできる場があった方が良いということで推進懇談会というものを設置し、医師が困っている難病の対応などをどのようにしていいたら良いかということを考えることから始めたそうです。そのようなことをしている中で医師会がリーダーシップを取って進めた方が大崎市はまとまる考えがあって医師会に大崎市在宅医療介護連携支援センターを設置して、現在、全面的にそちら</p>

	<p>が在宅医療介護連携推進事業を進めているというお話でした。</p> <p>これを聞いて町の事務局として思ったところは、これがとても素晴らしいとか、これが良い例だというよりも、大崎市も初めから全部上手くいっていたわけではなくて、先生方と認知症ですとか難病勉強会などを長く行っている中で医師の困っていることをどう解決していったらよいのかと取り組んできた結果が今に繋がっているのだということがわかったということです。大崎市の取組は平成21年度からなので今考えると10年も前になるということで10年かかってやっとここまで到達したということがありますので、遠田郡としても先生方と勉強する機会とか研修する機会とか取組を増やし、私たち自身が先生方のことをもっと理解することから始める必要があるのかなと、やはり長い期間をかけていろいろなことをできるところから作りあげていくことを感じてきたところでした。</p> <p>以上になります。</p>
横山委員	何か御質問等ありますか。
玉手委員	大崎市の連携支援センターは市役所にあるのですか。
相原課長補佐	医師会にあります。
横山委員	医師会がやっているというか、全てをとりまとめる事務を置くというかケアマネジャーを置くというか、非常に凄いですけど財政的にも潤沢でないと整わせることはできないですよ。
相原課長補佐	この通りにしようとか、このように進めようということではなくて先ほども言ったとおり我々があまりにも先生方のことや医師会のことをわかっていないということが、反省点であったり気づきだったりしたところです。もっと早い段階で気付いて取り組めたら違ったのかもかもしれないと思うのですが、これからできるところを取り組めたらと考えております。
大蔵委員	大崎市の推進委員会の委員の1人なのですが支援センターは職員が2人です。形は出来ているとは思いますが取組は至って普通のことです。支援センター自体も役割がよく分からないというのが実情です。研修等は行っていますが大崎市内の在宅ケアを深く理解しているのかという点はまだですし、そこまで大崎市が進んでいるわけではないです。雲の上の存在までではないです。
横山委員	市民病院があって多くの医療機関があって、あちらはあちらで中々難しいかとは思いますが。
大蔵委員	唯一断言できるのは、あちらは医師会がイニシアティブを発揮している。その点は違うと思います。

相原課長補佐	今後、色々と一緒に取り組ませていただければと思います。何かをすぐに解決できるとか素晴らしいしくみが来年度にできるとかではないし、どこまで市町村でこの事業を進めていけるのかというところも解らない部分も多くありますので、1つ1つ確認しながら進めていけたらと思っております。
	終了 午後7時35分

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年 月 日

委員 _____

委員 _____